



研究者名※	藤田武志	学位※	修士(教育学)
所属※	人間社会学学部 教育学科	職名※	教授
連絡先	fujitat@fc.jwu.ac.jp		
URL	http://fujita-takeshi.la.coocan.jp		
researchmap※	https://researchmap.jp/takeshi_fujita		
研究分野※	教育学、子ども学、教育社会学		
研究キーワード※	生徒指導・進路指導、青少年問題、学力問題、学校文化、人権・権利、非行・逸脱、教育調査法		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高等学校部活動の設置形態及び活動状況の実態と課題に関する教育社会学的研究 ・矯正施設における市民性教育の可能性に関する研究 ・若者の教育とキャリア形成に関する調査研究 		
社会貢献・産学官連携活動等			
受賞歴			

研究領域	教育学、子ども学、教育社会学	(SDGs)
研究テーマ※	格差社会における学校の問題点と改善の方向性	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】</p> <p>生まれによって身分が決まった封建社会とは異なり、私たちの生きる近代以降の社会では、本人の能力と努力次第で可能性が広く開かれていくはずでした。しかし現在でも、家庭の社会経済的背景が本人の意識や態度に影響を与えることによって、さまざまな格差が再生産されています。そのような状況のなかで、学校は格差を是正する役割を果たしているのでしょうか。それとも、格差を拡大させてしまっているのでしょうか。</p> <p>このような問題意識から、第一に、日本全国の若者の標本調査を使って、「意欲の貧困」が、家庭的背景や学校における経験とどのように関係しているのかを探った研究をしました。意欲の貧困は、どうせ自分には無理だと、せっかく見つけた仕事を辞めてしまったり、生活の改善を諦めてしまったりするような状態のことを言います。その原因は、自分は目の前にある道の状況や困難な課題に立ち向かえるし、何とか乗り越えられるだろうという「根拠のない自信」が欠乏していることです。人生のなかで小さな成功や肯定的な経験を積み重ねながら、人々は根拠のない自信を蓄積していきます。この研究では、1)ほとんどの日本の若者が通う高等学校が、そのような経験を蓄積する場所として機能しているのかどうか、2)「意欲の貧困」に関して困っているのは誰なのか、3)私たちが当たり前と見なしている教育制度のどこに問題があるのかという問いを追究しました。</p> <p>第二に、少年院とともに、非行傾向のある生徒を受け入れている高校で行ったフィールドワークを通して、非行少年を社会がどう処遇しているのかを探る研究です。少年院では、社会に復帰するために、高校卒業と同等の資格を取るよう少年たちを支援していますが、外部の人々にはその具体的な様子はほとんど知られていません。この研究では、少年院における修学支援の様子を描写しながら、そこにはどのような意義や課題があるのか、また、非行少年を生み出している社会の側にはどんな問題があるのかを考察しました。</p> <p>【研究方法の特色】</p> <p>現場に足を運んで観察やインタビューをする調査と、大規模なサンプルにアンケートをとる調査の両方を用いて研究を実施しているところに特徴があります。</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・藤田武志「学校経験と社会的不平等 ―「意欲の貧困」を手がかりに」乾彰夫・本田由紀・中村高康編『危機のなかの若者たち ―教育とキャリアに関する5年間の追跡調査』東京大学出版会、2017年。 ・藤田武志「二重の社会的排除を乗り越える方向性 ―多様な生徒を受け入れる高校教育に向けて」少年の社会復帰に関する研究会編『非行少年の社会復帰支援と学校教育のあり方に関する教育社会学的研究』2019年。 ・田中奈緒子・藤田武志・伊藤茂樹「少年院における修学支援」少年の社会復帰に関する研究会編『社会のなかの「少年院」 ―排除された子どもたちを再び迎えるために』作品社、2021年。 	
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・困難な状況にある若者に関わる共同研究に興味があります。 ・格差の是正に向けた学校現場における実践の研究や支援をしたいと考えています。 	